

やけののそよ風



100年以上にわたる友情

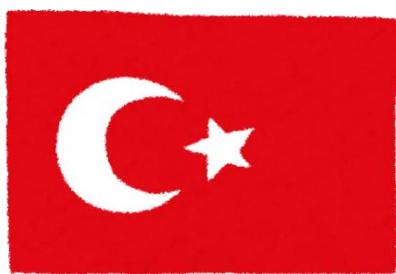
現地時間の2月6日未明、トルコ南東部のシリア国境付近を震源とするマグニチュード7.8の地震がありました。多くの建物が倒壊し、トルコ、シリア両国合わせて、これまでに3万人を超える犠牲者が確認されていると報道されています。現地では、懸命の救助活動の結果、がれきの下から生存者が助け出される一方、被災者は苦しい避難生活を余儀なくされています。この大地震を受けて、日本政府は現地に派遣する国際緊急援助隊の医療チームに資機材を迅速に届けるため、自衛隊機による輸送を行ふことを決めました。今後、ODA（政府開発援助）による緊急支援も早急に実施していくとのことです。



日本とトルコは、100年以上前から有事に助け合い、友好を育んできた歴史があります。

1890（明治23）年、親善訪日使節団として来日したトルコ軍艦エルトゥールル号は、和歌山県串本町の大島沖を航行中に猛烈な台風にあいました。舵が効かなくなった船は座礁。流入した海水でボイラーが爆発し、500人以上の乗員が死亡・行方不明となる大惨事となりました。遭難を目撃した大島の住民は、命がけで生存者を救助し、不眠不休で治療にあたりました。そして、奇跡的に69名が生き延び、トルコへ帰国できました。そのあとも、住民は乗組員の遺体を捜索し、遺族のもとに戻る遺留品の回収と修理に協力しました。当時の大島の住民は裕福ではなく、1日の漁業を休めば食べるために困る状況だったにも関わらず、トルコ人を救ったのです。この話は、トルコの教科書にも掲載され、今もなお子どもたちに語り継がれています。

エルトゥールル号の遭難事件から95年後の1985（昭和60）年、イラン・イラク戦争が勃発。イラクのフセイン元大統領は「48時間後、イラン上空を飛ぶ航空機を、無差別に攻撃する」と声明を出し、イランに滞在していた外国人たちは慌てて出国しました。イランに残った215名の日本人も出国を試みましたが、各国の航空会社は、自国民を優先して搭乗させるため、日本人を乗せる飛行機はありませんでした。日本から届いた連絡は「安全が確保されないため、日本から航空機は飛ばせない」「日本政府から自衛隊を派遣する許可も降りない」と非情なものでした。攻撃開始が数時間後に迫る中、イランのメヘラバード空港に2機の航空機が着陸しました。トルコの航空機が、日本の要請に応え、いつ墜落されるかわからない空を飛んできたのでした。無差別攻撃の予告まであと1時間というところで、日本人はトルコ航空機に乗り、イランの国境を越えることができました。このとき、空港には500人のトルコ人が取り残されていましたが、日本人が優先的に救助されたことに対して非難するトルコ人はいなかったといいます。



なぜトルコの航空機が来てくれたのか、日本政府もマスコミもわからずにいましたが、後に当時の駐日トルコ大使は、次のように語っています。

（※裏面に続く）

(※表面より)

「エルトゥールル号の事故に際して、日本人がしてくださった献身的な救助活動を、今もトルコの人たちは忘れていません。私も小学生の頃、歴史の教科書で学びました。トルコでは子どもたちでさえ、エルトゥールル号の事を知っています。今の日本人が知らないだけです。それで、テヘランで困っている日本人を助けようと、トルコ航空機が飛んだのです。」



親日国として有名なトルコ。日本の外務省による2011年の調査では、「日本とトルコが友好関係にある」と答えたトルコ人の割合は83.2%にものぼります。また、「日本に非常に関心がある」「どちらかというと関心がある」と答えたトルコ人の割合は61.6%。多くのトルコ人が日本に高い関心をもっていることが分かります。

トルコは、地震国であるという点で日本と共通しています。2011（平成23）年3月11日に起きた東日本大震災では、トルコは積極的に支援を行ってくれました。32名の救助隊に加え、缶詰約6万8,800個、水18.5トン、毛布5,000枚が被災地に贈られています。1,600万リラの義援金に加え、ニューヨークのトルココミュニティは3万ドルを寄付。トルコ大使館ではチャリティーバザーも催されました。これは、東日本大震災に先立つ1999年にトルコ北西部で起きた地震の際、日本がトルコに手厚い支援をしていたことへの恩返しでした。その後も友情は続き、2011年10月のトルコ東部地震の際には、まだ東日本大震災の混乱から立ち直っていない日本が支援を行いました。さらに、2020年のトルコ沖地震の際には、東日本大震災で助けられた石巻市が義援金を贈り、日本がトルコに恩返しました。このように、日本とトルコは地震が起きたときの相互支援によって、互いの絆を深めています。

古くから「情けは人の為ならず」ということわざがあります。「情をかけておけば、それがめぐりめぐってまた自分にもよい報いが来る。人に親切にすれば、必ずよい報いがある。」という意味です。エルトゥールル号を助けた日本人のように、また、イランへ飛行機を飛ばしたトルコ人のように、国境、言語、宗教、人種、損得などの壁を越えた「助け合い」の気持ち。これからも大切にし、いつまでも持ち続けていきたいものです。

【お知らせ】「欠席連絡アプリ」を導入します

新年度より、保護者連絡の利便性の向上を目的に、すべての大阪市立小学校、中学校、義務教育学校に「欠席連絡等アプリケーションシステム」が導入されます。それに先立ち、本校では、2月下旬ごろに同システムを先行導入することになりました。

これまで電話で行っていた学校・保護者間の欠席・遅刻連絡を、携帯電話などを利用してオンラインで行います。保護者の方は、専用アプリで欠席・遅刻などの連絡をいつでもどこでも簡単に入力できます。保護者の方が入力した欠席・遅刻情報は、職員室のPCで確認します。

準備が整い次第、ご家庭にシステムの詳細や設定方法などをお知らせします。

【大阪市で導入する「欠席連絡アプリ」の概要】

- ・事業者：株式会社ミマモルメ
- ・契約期間：令和5年2月～令和6年3月31日
- ・主な機能：欠席連絡（病状等の連絡を含む）、遅刻（登校予定時刻）連絡、体温の登録など

